

河内麦づくり情報 ~生育状況を確認して麦踏みを！~

1 気象概況

播種後気温は平年より高く推移していたものの、12月上旬以降は平年より低く推移しています。降水量は生育期間を通して平年より少なく推移しています(図1)。1月21日(木)気象庁発表の関東甲信地方1か月予報では、気温・降水量ともに高い確率が60%となっています(図2)。

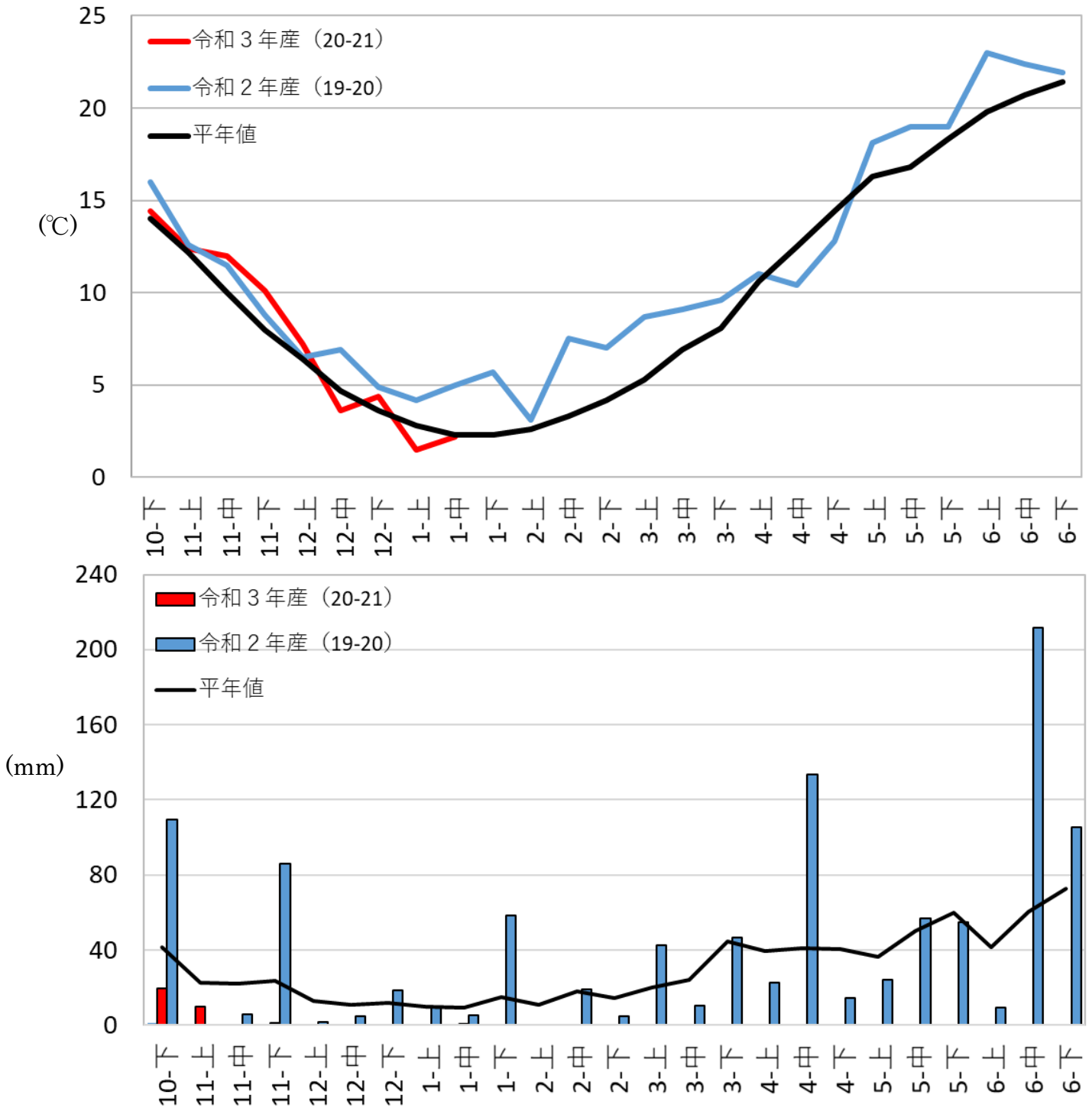


図1 旬別平均気温(上)、旬別降水量(下)の推移

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

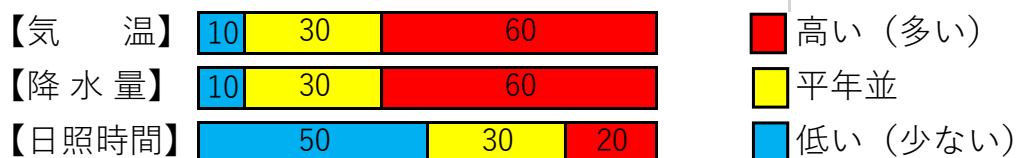


図2 関東甲信地方1か月予報(1/21(木)発表)

2 生育概況

ニューサチホゴールドの生育量は平年より小さいが、幼穂長は平年よりやや進んでいます。さとのそらは幼穂長含め、全体的に前年より生育量は小さい傾向にあります。

表 農試本場(宇都宮市)における生育概況(播種日 11/6)

品種名	年度	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色 SPAD	NDVI	幼穂長 mm	幼穂長 mm
ニューサチホ ゴールド	本年	10.8	698	5.3	35.2	0.34	2.8	1.2
	平年	12.3	815	5.0	34.9	0.41	3.5	1.2
	比	88%	86%	0.3	101%	82%	80%	103%
さとのそら	本年	10.8	626	4.8	46.8	0.33	2.1	0.2
	前年	10.9	896	5.5	48.6	0.52	1.8	0.5
	比	99%	70%	-0.7	96%	64%	112%	35%

注1) NDVI(正規化植生指数)とは、植物体の近赤外域の反射率と赤の反射率から求められ、植生の量や生育の良否を指数化したもの

注2) ニューサチホゴールドの平年値はH25~R1(7年間)、NDVIのみH29~R1(3年間)。さとのそらは2年目のため平年値なし

注3) 小数点以下第2位を四捨五入してあり、実際の差と一致しない場合がある

3 今後の管理

(1) 麦踏み

霜柱により、麦の浮き上がり(凍上害)が見られる場合は、土壌表面が乾燥している時に麦踏みを実施しましょう。

本年は下葉の黄化が散見されます。
下葉の黄化が著しく、生育量が小さい場合は麦踏みを控えましょう。
 無理して麦踏みをする、麦の生育が悪化してしまう可能性があります。
 生育量が回復してきてから麦踏みをするようにしましょう。



写真 二条大麦の下葉黄化(1/21(木)撮影)

(2) 排水対策

気象庁発表の1か月予報では、降水量は多い確率が高くなっています。降雨・降雪に備え、明きよの整備を実施しましょう。明きよを整備している人はほ場外の排水路に接続できているか、また溝が土や泥等で埋まっていないか確認しましょう。